

会 議 録

会 議 の 名 称	第4回 大内地域協議会
開 催 日 時	平成22年3月16日(木) 午後2時00分～
開 催 場 所	大内農村環境改善センター
出 席 者 氏 名	「出席者名簿」のとおり
欠 席 者 氏 名	阿部 順子、奥山 正雄、佐々木 肇、鈴木 久雄(敬称略)
会議次第 1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 協 議 1) 地域づくり推進事業について 2) 由利本荘市定住自立圏共生ビジョン(案)について(報告) 3) その他 4. 理事あいさつ 5. 閉 会	
会 議 の 経 過	別紙のとおり

出席者名簿

(敬称略)

(39名)

委員 (26名)	
会 長	佐々木 盛三
副 会 長	佐々木 ハツ
委 員	鈴 木 郁 夫
〃	吉 尾 榮
〃	佐々木 源 治
〃	中 村 勝 男
〃	佐々木 廣二
〃	伊 藤 金 一
〃	菊 地 敬 作
〃	佐々木 多 悦
〃	高 橋 教 子
〃	石 井 英 二
〃	齊 藤 貞 雄
〃	田 口 正 夫
〃	布 施 隆 子
〃	小 嶋 宏
〃	佐々木 正 男
〃	小笠原 良一
〃	伊 藤 直 子
〃	富士盛 久美子
〃	東 海 林 重
〃	堀 川 一 博
〃	東 海 林 長 子
〃	堀 隆 一
〃	佐々木 耕 市
〃	鈴 木 鋭 一

職員 (13名)		
由利本荘市役所		
理事		猿 田 正 好
大内総合支所		
総合支所長		齊 藤 光 一
振興課	主幹兼課長	工 藤 良
市民課	主幹兼課長	佐 藤 光 治
福祉保健課	課長	田 口 松 雄
産業課	課長	吉 尾 金 雄
建設課	主幹兼課長	佐 藤 光 男
教育学習課	課長兼大内公民館長	加 藤 均
下川大内出張所	主席参事兼出張所長	星 川 謙
上川大内出張所	参事兼出張所長	菊 地 久 昭
(事務局)	主席参事	富士盛 良輝
	主査	真 坂 輝 仁
	主任	鈴 木 祐 也

会議の経過

第4回大内地域協議会

平成22年3月16日（火）
午後2時00分 開会

○事務局

ただ今より、平成21年度第4回大内地域協議会を開催いたします。
会に先立ちまして、佐々木会長よりあいさつをお願いいたします。

○佐々木(盛)会長

【あいさつ】

○事務局

それでは案件に入ります。
これより進行を議長である佐々木会長をお願いいたします。

○会長

協議の1番目といたしまして、地域づくり推進事業について、当局の方から説明をお願いいたします。

○工藤振興課長

【地域づくり推進事業について説明】

○会長

8地域の地域づくり推進事業につきましては、2月10日に東由利で正副会長会議が開催されたわけでございますけれど、その時に各地域の推進事業について説明をいただきました。この案をもって議会に説明をいたしまして、300万が当初予算に計上されるというように進められていくわけであります。その点申し遅れましたので、一言付け加えさせていただきます。

○副会長

今の会長さんの言葉にさらに付け加えさせていただきますと、2月10日の正副会長会議のときに、新しく会長・副会長の選任がありまして、会長に由利町の佐藤千秋さん、副会長にうちの方の佐々木盛三さんが就任されましたので、ご報告させていただきます。

【各課長による地域づくり推進事業に関する説明】

○会長

この7項目につきましては、過去の地域協議会におきまして皆さんにいろいろとご意見を拝聴しながら、こういう風にまとまったわけでありまして、今改めて聞いておきたいことなどありましたら、お願いしたいと思います。

○A委員

疑問に思うことは、今まで大内地域で行っていた事業の大半にどうしてこんなにお金をつぎ込むのか、その点が一つ疑問に思います。

大内地域には、上川大内、下川大内、岩谷とそれぞれ組織がありますけれど、組織そのものが非常に厳しい状況になっており、例えば町内会長会とか、婦人会とか、あるいは老人クラブとか、生産班とかあると思いますけれど、上川大内町内会を例に挙げて申しますと、各家々から会費をもらって運営しておりますけれど、運営するにも非常に大変な状況で困っております。それと同時に婦人会の方も厳しいということも耳にしております。

このようないろんな事業をやるにしても、基礎となるその組織が健全でなければなかなか思うようにいかないのではと私は考えております。大内町時代は町から助成をもらって、町内会活動も非常に良く行われていたわけですが、最近はお金もなくて身動きできないような状況です。こういう地域づくりも良いのですが、もっとそういった組織にお金を回すような形をひとつお願いしたいと思います。

どんな立派な地域づくりを考えても町内会等の組織団体が協力しなければ思うようにいかないと思いますので、そういうこともひとつ検討していただきたいと思います。

以上です。

○会長

今のAさんの意見は、この300万の事業の中にそういうことも含めていただきたかったというご意見だと思いますけれど、それはまた別な考え方から出てくるのではと思います。

町内会の関係につきましては、わたくし連絡協議会の会長もやっておる点から申し上げますけれど、上川大内地区、下川大内地区、岩谷地区とそれぞれ地区の町内会長会があって、その上に連絡協議会がある訳なんですけど、今Aさんが申し上げましたとおり、合併前と比べますとお金がございません。

岩谷地区の場合を申しますと、各町内から7千円をいただいております、20の町内がありますので14万円集まる訳なんですけど、その中から2千円は連絡協議会への負担金として拠出しますので、岩谷地区で使える分は10万円と言うことになります。これでは今までのような行事はできませんということで、従来ですと市で開催していただいていた春と秋の町内会長会議というものは、春だけは市の方でやるけれど、それ以外はできませんよということで、秋の町内会長会議というのは

48の町内から2千円ずつだしていただいた9万6千円で会を開いて懇親会を行うというふうに変わってきております。

今Aさんが言われたようなことに関係するようなことが、平成22年度の当初予算でどのようなになっているかは私もわかりませんので、今議会審議中でしょうけれど、もしその関係のことおわかりでしたら、支所長でもどなたでもよろしいですけど、町内会・町内会長に対するお金の扱いは今までより厚くなるのでしょうか、さらに薄くなるのでしょうか、教えてください。

○斉藤総合支所長

前々から言われておりますけれど、運営費につきましては、大内町時代はかなり手厚くしてきた経緯がありますけれど、合併後（各地域）統一をするという中で、かなり下げられております。

ただ、20年度には平均化されて、それが現在も継続しているということです、本年度は昨年度と同額に予算計上されているという状況です。

（今後）運営費が上がるという状況にはありませんし、大内だけそれに対して積み上げるということはないと思います。Aさんが言われたことは、この事業の中で、そういったことも取り組めないかということだと思いますが…

○A委員

町内会だけでなく、婦人会等もお金が無くなって、尻すぼみになっても良くないわけですし、活動というのはお金なくてはできないわけで、由利本荘市で出来ないのであれば、大内地域（独自）でこのお金を使って…ということも話し合いの中で出来ないわけではないと思いますので、そういったことを申し上げたつもりです。

○斉藤総合支所長

大内地域で特色のあるそういう事業を挙げていただいて、この中で協議していただければそういったことも十分できると思いますので、具体的な提案があればよろしくお願ひしたいと思います。

○会長

今Aさんが言うことはよくわかりましたので、ただここにある事業というのは100パーセント近く決まってしまう事業でありますので、支所長がおっしゃられたようにこれからの中で何らかの形でそういった提案・議論がなされていけばと思います。

私の解釈からいきますと、各町内会に住民自治活動支援交付金というものをやっておるので、その中でそういうことをやっていただければという考えでいるのでは、と思います。昔のうたっこ歌えばそうなんでしょうが、やっぱり合併した結果、はっきり申し上げて、今のように町内会あるいは婦人会、老人クラブ、そういうものに対する交付金というかそういう形のものは私たちが想定した以下になっていると

ということですので、これは私がとやかく言うことではないのかもしれないですけど、市の財政も厳しいということですので…

○B 委員

会長が言っておられることと、A さんが言っていることは若干違うのではないかと思います。

これについては幹事会でも私も意見あったし、ほかの方も意見あったと思いますけれど、そのことをこの（協議会の）場に出していないからそういう質問をされるのであって、芋川まつりであるとか今回本予算がついているものにダブってこの事業から助成をするということなので、それであれば町内会とか婦人会の助成にこの会から回した方がいいのではと言っているのだと思います。

今日決定するのではないのですか。この間の会で決定したわけではないと思いますので、いかにも決定したもののようにして意見を遮られても…。

私も最初の会のときに、300万を各町内会に分配したらどうかという意見をしましたけれど、それから幹事会もやりましたけれど、幹事会でも予算の付いているものにダブってこの300万から出すのはうまくないのではという意見もあった訳です。

○会長

幹事会でそういった意見があったかどうかは、私も今定かではないですが、ほかの幹事の方いかがですか。

○工藤振興課長

今の B さんの意見は最初の会から出てきましたけれど、各町内会に一律に配分するようなものは、出だしの検討でまず外しましょうということになりました。

事業として何か出てきたならば別ですけど、ただ配るというのは本庁の趣旨からも外れると思います。幹事会でもそういった話は出ましたけれど、直接反映されておりません。

また、組織の強化の話が出ましたけれど、幹事会のときも意見がでたのですが、例えば婦人会、老人クラブ等については、それぞれのルートで（補助金等が）出ているということと、組織自体かなり苦しくなっております。そういう意味もあって、その人方がやろうとしている事業等については、事業に対して支援していきましょうということが出てきたのが、7番の事業です。花いっぱい運動、エコ活動については婦人会からもでてますけれど、そういうことで具体的に出てきたら、支援していきましょうということです。

あと、町内会活動の話については何回も出たので、またということになるんですけど、町内会等に関する補助金と、上川大内地区、下川大内地区、岩谷地区、（大内）全体の会もあるんですけど、これについては全市的にはお金等を出していないです。

それぞれから分担金でもらっているところ（他地域）もあまりないようです。集まったとき、何かをやるときに出し合ってやるという形で、会計を持っているところはまずないようです。

このことについても22年度はこれでいきますけれど、23、24、数年続きますので先ほど渡しました全市の部分を見ながら、来年度以降またいろいろと事業を考えていきますので、今日ここで皆さんの了解を得て決定するわけですので、変更できないわけではないですけど、22年度はこれでやってみて、23、24ありますので、反省をふまえながら、よその事業も見ながらローリングしていきたいと思いますので、何とかご了解していただきたいと思います。

○C 委員

わたしは平嶋なんですけれど、平嶋の会長さんもここにおります。年にいっぺん総会をやって、事業費等いろんなものを計算して、足りなければ事業の金を増やしましょうということを総会でやってます。

子供会などでいろんな事業をやって、足りなければ予算を増やしましょうとか、これを削りましょうとか、毎年会長が先になってやってます。ですから、平嶋の場合は年に2万、各家庭から出ます。それに対しては町内会の人たちは全部納得しているんですよ。ですので、足りないとか多いとかっていうのは、私から言わせれば愚の骨頂ではないかなと。

皆さんが町内会を動かすためにはやっぱり、一番最後（7番の事業）にあるリーダーになる人がだんだん減ってきているのではないかな、という感じは受けます。

平嶋は昔54、5軒あったのが今は50軒足らずで、年々軒数的には減ってきております。軒数的に減ってきている中で同じことをやろうとしても無理があると思うんです。お金はなくなるし。同じ事業をやりたい、皆さんどうしますかとなりますと他の事業を減らして何とかするというのが町内会の総会だと思います。

ですから、地域づくり推進事業と、町（町内会）全体のこととは若干違うんではないかと感じております。それ（町のこと）は町内会長会が市に要請すればいいことであって、地域づくりについては、大内全体を生かすためには何をやればいいのかということを考えてほしいし、町内会長会と地域協議会とを別で考えていただけたら、私共も（町内会とは別の立場で）会長さんたちを応援したい気持ちもありますので、その辺別の考えでやってもらいたいと思うのですが、どうですか皆さん。

○D 委員

この間、市政だよりを見させていただきました。各地域まわっての市長の意見がいろいろと書かれておりましたけれど、その中で地域の活性化は町内会長が先頭にならなければ、という発言（記事）がございました。わたくしも全く同感です。上川大内の方々が発言したのはそういうことだと思います。この地域協議会はすごく高い位置づけになっていますし、各町内会長さんたちの意をくんでということ（の発言）だと思います。

○会長

A さん、そうすれば先ほど振興課長の話にあったように、今年22年度はまずこの案でもって進めていくことにしたいと、それと23年度以降も続くようですから、そのときにあなたのご意見のことも参酌しながら、事業の中に繰り込んでいきたいとそういう答えであったようですけれど、(先ほど言ったようなことは、)最初の24項目には入ってなかったようですから。

○A 委員

今までやってきた事業に対して、予算があるものに重ねるお金でしょう。そういったお金は他に回した方がいいのではと思います。それをひとつ私の意見として聞いておいてもらいたいと、そういうことです。

○会長

22年度は、この案で大内地域の地域づくり推進事業としては進めてまいりたいと、こういうことでございますので、その点を一つご了承願いたいと思います。

○E 委員

幹事会に参加させていただきましたけれど、今イベントに予算が付いているものにさらに…という話がありました。いろんな事業の内容を募集しましたところ、このイベントに対しての市の予算が付かない部分、先ほど会長さんの方からお話もございましたけれど、今までで古くなって壊れて使うに耐えられないものがいっぱい出てきていると、けれども市の予算では、そういうのがなかなか付かなくて、そういうのに使いたいというお話がありました。

市の予算は、特に地域地域の細かい予算というのは、今はやりの事業仕分けでどんどん切られて、付きにくくなっています。だけど実際そういうイベントとかの場合に、用具が壊れて使えないようであれば、今後市の予算も付きそうにないとなれば、こういうお金を使ってこそ直すべきなんではないかというみんなの意見もありました。その使い方についても、大きいものを一つということもありますし、各要望があった中からということもありました。その中で精査しまして、イベントの場合は、この先続けるということを前提にして、用具壊れたもの、古くなったもの、補修のいるものをこのお金を使って直していった方がいいのではという話が出ました。

また、先ほど各町内会にお金が出ないという話が出ましたが、実は児童館の方も、今までは18万9千、次15万、今年は7万くらいになりました。

予算の中で私たち長いことやってますけれど、はっきりいってそのときそのときの政策とか市の方向によって、団体とか各地区のお金というのは切られたり上がったりしています。

私たち児童館の運営委員は、官のお金ははっきりいって当てにしないことにしよう、もらえればそれでラッキー、まず最低のラインでやっていこうという気持ちで長いことみんなががんばってきました。減らされたとしても、そのときには事業費

をひとつ減らしていけばいい、その中でみんなが持ち寄るものがあったら、持ち寄って、知恵を出し合ってやっていこうということで、7万いくらに減っても事業自体はそんなに変わってないです。もちろん規模は全然違いますけれども…。

それでも、かえってみんなであしななければ、こうしたほうがいいのではということ、結束が強くなったというか、団体そのものよりも物事進めていく上での結束の方が強くなっていくということもあります。

この先は市にもお金がないという、だんだんそういう時代に当然なってくると思います。私たちはそういうお金の中から、何とかしてそれを工夫して持っていくか、例えばこういう地域づくり推進事業がでて、上川で地域高齢者支援事業というのを、出していましたよね。こういうのは私はすごいなと思ひまして、自分たちの町内会で出来なかったら、こういう事業についてお金をうまく利用して行って、このほかにも（使える予算は）あると思います。いろいろな他の予算使えるところ、ほじくれば出てくるところ結構あると思います。そういったことを自分たちで情報を得ながらいろんなお金を使えるように工夫しながら、やっていくことが必要なんじゃないかなというふうに考えています。

あと同じようにこれは行政の方にもお願いなんですけれど、地域づくりのほかに町にはいろんな予算が付きますけれど、このところにはこういうお金使えるよという情報を各地区各団体にもう少しいろいろな形で流していただければ、その団体に補助金がどかつと出なくても、別のお金が集まることによって、いろんな事業ができることもあるんじゃないかなという風に考えます。

そういう情報をできるだけ提示していただきたいなというふうに思っております。

以上です。

○会長

他にございませんか。

○F 委員

私は、青少年育成関係を担当しておりまして、大内支部長を兼ねてます。

このたび、（青少年育成）市民会議の大内支部ということで、皆さんもご承知のように、各家々から300円ずつお願いしまして、60何万というお金をいただいております。

それを有効活用しようということで、学校等にも呼びかけまして、何か困っているようなことがあったら、あるいは緊急に必要なことがあったら、私たちの予算の中で運用できるのがあればということで募集しましたら、一番来たのが学校でした。

学校の校長先生も私たちの委員になっておりまして、例えば「卒業式があるので、学校の中を花で飾ってやりたいと思っているけれど、予算がないのでもし市民会議の方で可能だったらお願いしたい」ということで小学校3校、中学校2校に対して問い合わせましたら、異口同音にどこも何とか花の中で送ってやりたいと要望があ

りまして、去年からそれを実施しております。1校3万円ずつで15万円出しております。

校長先生に有意義に使ってくださいと言いましたら、花を買いますということで卒業式に参加しましたら、全部きれいに飾っておられました。

それで22年度の案はこれで決まるようですので、もし23年度からそういうものについて、例えば学校の関係の方々も含めて参加できるのであれば、私の方でも協力・申請していきたいと思っております。

そのほかに例えば児童館もそうですけれど、上川にきらりというのがありまして、そちらの方も卓球台が欲しいので何とか卓球台を買ってもらえないかということで、昨年度卓球台を設置しまして、非常に子供さんたちに喜ばれております。

そういうことも含めまして、もう少しこの地域づくり事業を、学校の整備であるとか、環境美化といった面にも向けてもらえればと思いますので、この場で申し上げさせていただきます。

○会長

Fさんがいうのは、地域づくり推進事業というもののの中に町内会長の育成の部分、あるいは老人クラブの育成の部分、婦人会の育成の部分というものも300万の中からひとつ盛ってもらえればということだろうと思いますけれど、先ほどからいろいろと論議されましたように、22年度につきましてはこの案でいくということで、23年度以降にそういったことを考えてまいりたいと、支所長からもそういう話ありましたので、ひとつご了承願いたいと思います。

○C委員

振興課長さんにひとつ伺いますけれど、7番にある講演・研修等を通じた、地域づくりリーダー養成への支援という項目がありますけれど、大内地域でこれからの時代を担う何のリーダーでもいいですけれど、そういうものに対して我々いろんな人材、こういう人をリーダーにしたいんですけど、ということに対して、支援というのは可能ですか。

○工藤振興課長

現在は、今言われたようなことに対して勉強会をやりたいとか、どこかに行って研修してきたいといってもお金がない状況です。そういうものに対して、地域協議会が年4回ありまして、来年度も5月、6月頃行うと思います。その中で皆さんに諮りながら決定していければと思います。緊急性のあるものに関しては、事後報告になる可能性もありますけれど、一応今のような研修事業なり、リーダー育成関係のものが出た場合には、予算が決まって5月頃にこの会がありますので、それまでにそのような意見が出てきた場合、その場でお諮りして、この15万円の中で支援していきたいと思います。

今50万、30万とおおまかに枠を取っておりますけれど、具体的に事業を進め

ていくと、この枠若干動くかも知れません。補助金だけ出すのではなくて、市の予算の中で、謝金においたり旅費においたりすることもあるかと思いますので、必ずこの枠びっちりということにはならないかもしれませんが、そのときどきでこの会で皆さんにご相談をかけながら、この中で動けるものあれば動きますし、新年度に向けるものがあれば12月頃はじめるのではなくて、その会ごとに皆さんの意見を聞きながらやっていきたいと思いますので、何とかご理解をお願いいたします。

○C委員

わかりました。

というのもわたし大内町時代30代のころ、いろんな研修会とかに行っていていとか言われた経緯があるので、今われわれがこう言いますけれど、今の30代40代の人がこの会にきて何か言えるかっていうと、旧大内町ではなかなか…。

人材はいっぱいいますよ。人材はいっぱいいますけれど、この会には来れない。これから若い人が担うためにも、なんかの研修会があったら、総合支所から抜粋して、こういう会あるからちょっと行って研修やってみてくださいというふうに、少なくとも旅費の半額くらい出してやってもらいたいと思いますので、来年度からでもぜひともお願いしたいと思います。

○会長

今のお話も支所の方で十分わかりましたということでございますので、この件につきましては終わりにして、次に進みたいと思います。

24項目の中から大内地域ではこの7つを選んで進めていくのだということを再度申し上げたいと思います。

それでは、次の由利本荘市定住自立圏共生ビジョンの案についての報告を、振興課長の方からお願いします。

○工藤振興課長

【定住自立圏共生ビジョンに関する説明】

○会長

ただいま振興課長から定住自立圏共生ビジョンの案についての説明がありましたけれど、わたしもこの協議会の委員になっておりまして、協議会等に参加してきましたので、大体的内容につきましてはわかってはおりますが、今申されたように総務省からはっきり認定されることとなりましたので、それによって今後予算も付いてくるのでしょうか、私の知っている範囲では、由利本荘市は全国の中でも早いうちに手を挙げておりまして、平成20年に1億4千万くらいの予算が取られてきたということで、その中で特別やっていただきましたのが岩谷体育館の屋根の解体作業、これは定住自立圏構想の指定を受けたためにやっていただけたとそういうふうに認識しております。後のことについては今説明があったとおりでございます。

今の件については報告、説明ということでしたので特別（質問等は）ないかと思
いますので、定住自立圏構想についてはこれまでにしたいと思います。

次にその他ということで、平成21年度の大内地域の主要事業につきまして、各
課長から説明をお願いしたいと思います。

【各課長より平成21年度大内地域主要事業についての報告】

○会長

ありがとうございます。

これにつきましては報告ということでしたので、これで終わりたいと思います。

○工藤振興課長

今の事業報告ですけれど、これは予算額でございます。事業はもう終わっており
ますので決算額に直せば良かったんですけれど、私ども時間不足で申し訳ござい
ません。大まかな報告ということで、そのあたりご理解願えればと思います。

○会長

ありがとうございます。

それでは協議とその他につきましてはこれで終了したいと思います。

最後に猿田理事の方から一言挨拶をお願いいたします。

○猿田理事

ご指名でございますので、お礼を一言だけ申し上げたいと思います。

今日で4回目ということで年度の予定は終了でございます。あとは市内は明後日
西目が4回目ということでほぼ終了でございます。

振り返ってみますと、4回ずつ本荘も含めて8地域、計32回いろんなテーマが
ありましたし、お願い事もございましたし、あるいは皆様方に変な難儀をおかけ
しながら地域づくり推進事業の絞り込み、それから提案と、今年はいろいろ課題は
あるにしても、従来の地域協議会の型にはまったと云ったら大変失礼かもしれませ
んが、そういった地域協議会の議論の中身からすると、一歩、一歩まで行かないと
すれば半歩でも従来から見れば少しは前進できたのかなと、率直な気持ちがいたし
ます。

わたしが地域協議会に最初にお邪魔してお話ししたのは、合併直後の総合発
展計画の計画作りの一回目の説明、それからそれを手直しして二回目の説明、地域
によっては三回目というふうなことで、合併直後に企画のときにそれぞれの地域で

お邪魔して以来、皆様方からいろいろとお叱りをいただきながらも、それからご助言をいただきながらもクリアしてきた記憶がございます。

わたくし大変恐縮ですが、支所長さんとも先ほど話していたんですが、思い出をいろいろ抱えながら3月で卒業させていただきたいというふうに思います。

それぞれの地域の協議会の皆様方には、先ほど申しましたように何回もお邪魔して、つまらない話もしましたでしょうけれども、そういったことに免じてお許しいただければと思います。

このあと市長が来ますし、懇親会も予定しているようでございますけれど、誠に恐縮ですが、会長さんにも先ほど叱られたんですが、かたっていけば良かったんですが、のっぴきならない他の様々な、この時期ずいぶんとあちこちから声をかけていただいております、約束事がたまりにたまっておりまして、大変に恐縮ですが、今日は会議だけ参加させていただいて、ごめんしてくださいということでお願いさせていただきました。

今後の、来年度も含めて、地域づくり推進事業も特に含めて、実践の年に入るはずですので、皆様方からのご助言を十分市の職員も身に腹に据えて、それから地域の皆さん方の協力を圧倒的にいただきながら、まず提案してお決めいただいたスタートラインをどのようにクリアするか、ご難儀の年になるかもしれませんが、頑張っていたいただければありがたいなというふうに思います。

大変にお世話になりましたことを、お礼を申し上げましてご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

○会長

今のご挨拶にもございましたけれど、理事は3月31日をもって定年退職されるということで、本日の懇親会には、ぜひ、かたっていただきたいということを申し上げてきましたけれど、いろいろとあるということで、本日はここで退席するということでございます。本当に大変どうもありがとうございました。

それでは会議のほうはこれで終了いたしたいと思います。

－午後3時30分閉会－

